

# 惣領観音堂

—惣領2町内—



疫病から人々を守ったとされる惣領観音

惣領2町内の湧水を集め、秋津川に合流するところに「惣領観音堂」があります。堂内には、次のように「惣領観音堂様由来」が掲げてあります。

大昔、毎年のように疫病が流行して、多くの子どもや人畜が大病にかかり困っていたそうです。ところが、ある梅雨期に大洪水があり、石の船に乗った観音様が現在地に着かれたので、住民は非常に喜んでお堂を建て、信仰しているところと自然と疫病が少なくなったことです。

ご本尊は木造2体が最も古く、台座のある木像は、江戸時代以前の作であることから、600年以上前の天正時代のものではないかと言われています。もう1体の虫つづれの木像は、2体の木像よりもっと古いものであるといわれています。

なお、お堂は昭和59年に私たち観音堂保存会員の浄財50万円により新築造営されたものです。

### 惣領観音堂保存会

堂内には、ご本尊と5体の仏像がありますが、その中の虫に食われた仏像が原初のものであれば、非常に古い時代から祀られていたと思われまふ。石の船が横の川底にあるという言い伝えもありまふ。観音様の座は16戸あり、毎年2月28日に親睦と五穀豊穰、家内安全の祈願が行われています。毎日お参りされる人もおられると聞きました。西に面した堂の前に、一基の安山岩自然石の板碑があります。通常は碑面に種子(仏を表す文字)、いつ、だれが何のために建立したのかを彫ってありますが、この板碑にはそれらが見当たらないので、墨で書かれていたことが推定されます。

益城町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

一人居の吾れ蜥蜴の友有りぬ  
惣領 小森英美子  
代かきの車上に農婦毅然たり  
下陳 城 陶子  
朝影に揺れて煌めく樟若葉  
広崎 松原まゆみ  
山里の焼場へ急ぐ栗の花  
木山 山口サツキ  
緑陰にカルガモ一家旅を待つ  
惣領 阪口 基明  
釣れすぎて妻はぐちりてアジ捌く  
木山 増岡 伸禱  
雨の中庭の傘月に傘を立て  
惣領 阪口由美子  
あじさいも雨を浴びたい梅雨の花  
惣領 新居 露子

## 狂句

田上富岳 選

ふだんから 若い綺麗ち言われまふ  
宮園 永瀬 美波  
ふだんから 家のおつなは山ノ神  
寺迫 左 喜樹  
ふだんから 笑顔絶やさぬ福の神  
島田 堀川 骨鶏  
ふだんから 親は見ろてち思とらん  
宮園 岩本よこく  
ふだんから エンマもニヤリ袖の下  
木山 増岡 酔粹  
当たり前 やっぱり俺の子どもばい  
江津 高田美佐子  
当たり前 アイス二本は腹に来る  
広崎 松原まゆみ  
当たり前 歳相応でいくがよか  
宮園 井藤 吉郎  
当たり前 止められんからビール腹  
惣領 小森英美子  
当たり前 夫婦ギャンブル家潰し  
惣領 阪口 基明

### 狂句次号の課題 「飲ますけん」「足取り軽く」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。